

第3学年 SDGsと関連付けた校外学習・宿泊行事の学び

学年担当 君和田雅子 戸谷順子 前川哲也 渡邊智紀
大塚みずほ 加藤理嘉 宗我部義則 中山由美

I. はじめに

こころ学年では、入学時より引き続き今年度も「リーダーシップの育成とSDGs」を中核として、校外学習、生徒祭、進路学習、道徳等と関連づけた総合カリキュラムを展開した。本稿では、その中でも6月に実施した校外学習と宿泊行事における生徒たちの取り組み、学びについて記す。

II. 6月校外学習・宿泊行事

コロナ禍が続くものの、今年度、こころ学年では6月に初めて宿泊行事を行うことができた。

実施にあたっては、十分な感染対策を取ることも、また、感染状況の拡大によっては宿泊行事を全て中止とせざるを得ないことも想定し、通常の2泊3日ではなく、あえて日帰り(都内)1日と1泊2日を連日で行う計3日間の行程とした。

この3日間の一連の学習は、SDGsに関する内容およびキャリア教育との関連を持たせた。持続可能な社会作りの主体となる生徒、将来の生き方や自らの在り方を考え続けることのできる生徒の育成を目指すとともに、生徒祭での展示・発表を通して、学習した知識や経験を、様々な手段を活用して主体的に他者に表現する力を高めるなど、生徒一人ひとりのリーダーシップの育成も意識した。

(1) 校外学習

1. 目的

◎学年総合のテーマである「リーダーシップ」「SDGs」の視点を踏まえ

- (1) 少人数で密を避けつつも現場に足を運び、社会の第一線で活躍する方からSDGsの「水」に関連する具体的な話を伺い、学校では味わえない生きた学びの機会を確保する。
- (2) 水族館の、外からは見えない仕事を見学したり、お話を聞いたりすることを通して、将来社会とどのように関わっていくか、自身のキャリアについて考える機会とする。

2. 実施日時 2022年(令和4年)6月15日(水) 8時10分～14時

3. 実施場所 マクセル アクアパーク品川(現地集合・現地解散)

4. 行程

- 8:10 集合(場所:アクアパーク入り口前)
- 8:30 選択講話(A班がエイとSDGs、B班がサンゴとSDGs)
- 9:00 全体講話 イルカとSDGs
- 9:30～ 館内班別見学、バックヤードツアー
- 11:00～(11:30～) 昼食(午後バックヤードツアーのクラスが先)
- 14:00 集合・解散

選択講話では、学年をA班とB班の2グループに分けて講話をうかがった。A班では、エイの生態と、海洋汚染やマイクロプラスチックに関する課題を中心に、お話いただいた。また、B班では、地球温暖化とサンゴの白化の課題を中心にお話いただいた。どちらも、SDGsの14番「海の

豊かさを守ろう」や、12番「つくる責任、使う責任」、13番「気候変動に具体的な対策を」に関連した講話である。

(右写真) 講話を聞く生徒の様子

目の前にいる生き物を見ながらお話を伺うことで、生徒はリアルに、自分事として課題を捉えることができたのではないかと考える。3学期の社会科(公民的分野)「国際社会の諸課題の解決に向けて」のレポートでは、マイクロプラスチックや地球温暖化の課題について解決をテーマに取り上げた生徒が見られ、ここでの学習が他教科の学習とも関連付いていく姿が見られた。

全体講話では学年全員がイルカのプールに集まり、イルカの生態や、人間にはないコミュニケーションの仕組み(エコロケーション)などについて教えていただき、生徒は動物と人間の共生について考えている様子だった。このあとイルカショーを見る機会にも恵まれたが、イルカのもつさまざまな能力について考えることができた。

(右写真) 講話のようす

バックヤードツアーでは、11人の班を10班つくり、一班20分ずつで水族館の裏側を見学した。水槽の裏側の様子や、水槽の海水循環システム、餌の準備の様子、水族館で働く方々の仕事の様子など、見学したものは班によって様々ではあったが、水族館や水族館で働く人の仕事について理解を深めることができ、キャリア教育の面からも有効であった。



(写真左) 通路の中を歩く様子



(写真右) 水槽の裏側を見学する生徒の様子

(2) 宿泊行事

1. 目的

- 心と心のふれあいを体験する。
- 自主自律的な活動の場とする。
 - (1)人與人とのふれあいの中で、人とのつながりを体感する。
 - (2)地域に根ざした生活・文化を体験する。

- (3) 五感を通して、歴史・文化・自然に触れる。
- (4) 集団生活における協力と責任を自覚する。
- (5) 中学校生活の思い出となるよう、3年間の諸活動の集大成と捉え、視野を広げる。

○自然の中での様々な活動を通し、自然を愛する心を育む。

2. 実施予定日時 2022年(令和4年)6月16日(木)～17日(金)

3. 宿泊施設 山中湖旭日丘温泉 ホテル清溪

4. 主な行程

<p><1日目></p> <p>7:45 学校集合 点呼 バス乗車</p> <p>8:00 バス4台に分乗して出発</p> <p>10:00～11:00 富士山世界文化遺産センター または ふじさんミュージアム</p> <p>11:40 ホテル清溪到着</p> <p>12:00 昼食</p> <p>14:30 ホテル出発(徒歩)</p> <p>14:45～ 旭丘棧橋乗り場 白鳥遊覧船(15:00～15:30)乗船</p> <p>16:00 ホテル到着</p> <p>16:10～17:20 入浴</p> <p>17:45 夕食</p> <p>18:30～20:30 講話1 富士山について 講話2 山中湖について</p> <p>21:00～22:00 就寝準備・就寝</p>	<p><2日目></p> <p>6:00 起床・朝礼(ホテル前広場)</p> <p>6:45 朝食</p> <p>7:30 部屋の清掃・荷物片付け</p> <p>8:00 ホテル発</p> <p>8:30～12:00 石割山登山口 石割山ハイキング</p> <p>※雨天時 ホテルでネイチャークラフト (ドリームキャッチャーづくり)</p> <p>12:30 昼食</p> <p>13:00 ホテル出発・点呼・バス乗車</p> <p>16:00 学校到着</p>
---	---



写真(左)石割山山頂にて



写真(右)わかさぎ講話の様子

3年間で初めて宿泊を伴う行事を行う難しさや、活動中のコロナ対策に気を配らなくてはならないなどの困難を抱える中ではあったが、「自然環境(富士山・石割山)・文化とSDGs」、「地域の持続可能性(ワカサギ漁)とSDGs」に焦点を絞り行程を計画した。前者については、行程初日の「富士山世界文化遺産センター」および「ふじさんミュージアム」の見学や、初日夜にNPO法人富士山ネイチャークラブ様による講話で基本的な知識を得たのち、実際に登山を体験する中で、ナラ枯れなどの山の生態系が抱える課題や山岳信仰の実際(山頂近くにある石割山神社の見学)を肌で感じることで、課題を自分に引き寄せて考えるきっかけを作ることができた。後者についても、初日夜に山中湖漁業協同組合の方に講話をしていただく中で、コロナ禍による地域の観光業への大きな打撃があっ

たこと、登山やサイクリングで村を訪れる人たちが多く目に着き、富士のふもと山中湖村農泊推進協議会の一員として協働し(注1)、山中湖で採れるワカサギを利用したエナジーバー(MANA BAR(注2))を新たに特産品として生み出したことなどを知ることができた。このように、地域の特色を生かしながら、どのような工夫をして地域を持続させていくかという視点は、のちの社会科の学習(3年3学期公民的分野「地方も私も豊かになる『ふるさとの納税』について考えよう」)等の中にもつながっている様子が見られた。なお、このエナジーバーは、学年で購入して生徒に配布し、帰宅後に食べてもらうことにした。

(3) 生徒祭での発表

校外学習・宿泊行事の体験を元に、9月の生徒祭に向けて2つの方法で学んだことを伝えることとした。一つはポスターにまとめ不特定多数の他者に伝えること、もう一つは、クラスごとに生徒祭で行う企画を練って、祭りの中で他者にSDGsに関する課題や取り組みを目の前の他者に伝えることとした。ここでいう「他者」とは、今回は生徒祭の来場者(保護者、附属小生とその保護者)、1・2年生、教員が対象となっている。対象や場面に応じて効果的に伝えることを考えながら、ポスター作成や生徒祭企画の立案をするよう促した。これらを通して、自分自身の認識をさらに深めるとともに、まとめを広く発信することで、SDGsの課題解決につなげることをねらった。

生徒祭の企画について説明する際に、「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」という井上ひさし氏の言葉を紹介した。効果的に伝えることを意識して各クラスで創意工夫を凝らした企画を紹介する。

<松組>

○企画名「 $3(M-9)=0$ 」($3M=27$)

○企画概要 校外学習と宿泊行事での学びを軸に、教室を富士登山に見立て、1合目から5合目までの各ブースで班ごとに富士山の成り立ち、富士山の動植物、富士信仰、山中湖の自然、海生ほ乳類、などについてクイズを出題し、正解数によってプラバンのマスコットをプレゼントする企画を行った。富士山にちなんだオリジナルマスコットのデザインからプラバン製作まで、工程毎にわかれ、協力して行った。

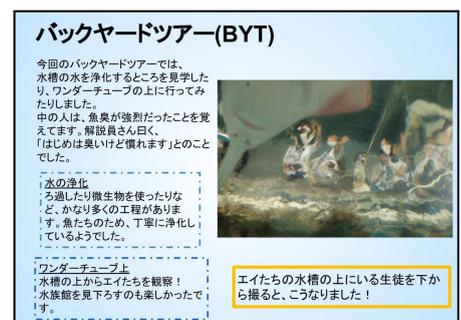


<蘭組>

○企画名「まえかわ祭」

○企画概要 校外学習・宿泊行事で学んだテーマに沿って、班ごとに次のように縁日の形式で発表した。

- ・エイやサンゴ、イルカについてのクイズ。全問正解するとエイやサンゴ、イルカのお面がもらえる。
- ・折り紙で作った富士山や富士山の動植物を的とした射的。
- ・スーパーボールを山中湖のマリモに見立てた「マリモすくい」
- ・富士山から出てくる動物をモグラたたきの要領で叩く
- ・イルカをターゲットをした「輪投げ」



<菊組>

○企画名 「汝は何しに3Kへ」

○企画概要 校外学習で学んだことを元にしたクイズ企画。

- ・教室を、動画を見るブースとクイズを解くブースに分ける。まずは来場者に、教室に入ったときにクイズを解く用紙を配布し、校外学習・宿泊行事(富士山やその周辺の自然、山中湖など)についての動画をスクリーンで見ってもらう。

※動画は、班ごとにテーマを分担し、1分程度の短い動画を作成し

た。スライドをもとにしてナレーションをつけた班や、掲示した資料を背に生徒が語る班、海の生き物のペープサートを録画した班など、班ごとの工夫が見られた。

- ・動画を見終わったら、クイズを探すブースに行ってもらい、そこでクイズを探してもらい、出口のところで答え合わせ、ポイント計算をする。

山中湖について

- ・山中湖は富士の大噴火によって宇津湖がわかれてできた。
- ・富士五湖の中の一つ
⇒本栖湖(もとすこ)、精進湖(しょうじこ)、西湖(さいこ)、河口湖(かわぐちこ)、山中湖
- ・富士五湖の中で一番面積が広く、富士山に最も近い
- ・日本で3番めに標高が高い
- ・山中湖はくじらの形



<梅組>

○企画名「すみっこ日記。」

○企画概要 入口でスタンプカードを受け取り、各ブース発表を聴く。その後クイズなどの各班が用意した発表内容に関するアクティビティを行う。その正答率によってスタンプをもらう。次のブースでは富士山や山中湖に関する発表を聴き、同じようにアクティビティを行い、スタンプをもらう。最後にスタンプを集めた数だけオリジナルの景品(プラバンか栞)がもらえる。

<私達ができること>

山の中の生き物は互に関わり合って生きている。だから、どれか1つでも崩れてしまうと山の自然は変わってしまう。私達が今できることは…



- ・冷暖房機の設定温度を調節し、クールビズ・ウォームビズと併用し過剰に使いすぎないこと。
- ・公共機関を使い、自動車を運転する際にはアイドリングストップを心がける。

Ⅲ.3月校外学習

卒業プログラムの一環として、3月に以下のように校外学習を計画、実施した。生徒には、事前・事後学習を行い、この校外学習で体験したり学んだりしたことをまとめ、学年発表会を行うことを伝えた。発表会当日は希望のあった60名程の保護者の参観があった。

1 日時 2023年3月8日(水)9:00～15:00(午前または午後の半日、昼食なし)

2 目的

- ・これまでに学んだSDGsやリーダーシップの視点を活かした各プログラムを通じて学んだことと、専門家から学んだり、実物に触れたりしたことをつなげ、視野を広げる。
- ・各自の関心あるテーマを選択することで、少人数で密を避けつつ個性を活かした校外体験学習を進め、それを3月の卒業プログラムで発表することで体験的な生きた学びの機会を確保する。

2022年度 第3学年校外学習 訪問先一覧 生徒在籍数107名・引率教員8名

	担当	訪問先	プログラム内容	集合	解散	人数	備考
①	大塚	国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン 事務所	難民問題をテーマに世界の子どもの取り組みを取り巻く課題についてお話を伺ったり、ディスカッションを行ったりします。	9時45分頃	12時	最大20名	・交通費(自宅～中野坂上(大江戸線))
②	君和田	東京都現代美術館	クリスチャンディオール展(特設展:無料)と常設展見学(ミュージアムスクール)	10時	12時頃	9～15名	・往復交通費(自宅～清澄白河)
③	戸谷 奥山	国立国会図書館 東京古書会館 神保町古書店散策	国会図書館バックヤードツアー 古書入札見学 神保町古書店街散策	11時半	15時半	13名	・交通費(自宅～神保町、神保町と永田町往復、神保町～自宅)

④	中山	清水建設(株)技術研究所シ ミス・アカデミー・テクニ カルツアー	建築の面白さを体験できるツ アー https://www.shimz.co.jp/com pany/csr/soa/index.html	10時	12時	9～15名	・交通費(自宅～越中島) 越中島から徒歩10分
⑤	加藤	日立システムズ	企業の方から仕事やオフィスの 紹介を伺う他、ITで解決できる ものや仕事を通じての社会との 関わり方を考えます。	9時	12時	15名以内	・交通費(自宅～JR大崎駅[往復]) ・事前学習課題があります。 ・訪問当日グループ討議・発表あり
⑥	前川	みなと科学館/気象科学館 NHK放送博物館	科学や技術に関する展示を見学 し、科学・技術と私達の関わり を考えます。	9:30	12時	最大20名	・交通費(自宅～神谷町)
⑦	渡邊	東京地方裁判所	三権をめぐる巡検& 民事裁判ジュニアツアー	9時	12時 頃	最大15名	首相官邸、国会議事堂などの巡検をし てから、裁判の傍聴を行います。はさ み、カッター類の持込み不可。
⑧	宗我部	文京・台東文学散歩	身近な文京区・台東区の文学や 歴史に触れながら散歩します。 本郷三丁目から漱石・鷗外や子 規等の史跡を歩いて巡ります。	8:30 本郷三丁 目改札	12時 鶯谷	15名以内	集合解散・場所までの交通費。 鷗外記念館(0)・朝倉彫塑館(250)・ 子規庵(0)他を回る予定です。 *()内は入館料(円)



IV.まとめ

コロナ禍で様々な制約や制限の下で学校生活を送った学年ではあるが、最終学年となった2022年度は、校外学習と宿泊行事を予定通り行うことができ、生徒たちにとっても思い出深い1年間となったことであろう。

また、昨年度3月の校外学習に続いて、6月の校外学習と宿泊行事では総務(各クラス2名ずつ選出)が中心となり、目標やルールをクラスで話し合ったり、班ごとに見学先を決める調整を行い、手段を率いる立場でのリーダーシップだけでなく、それ以外の生徒にもフォロワーとしてのリーダーシップを育成する場にもなった。完全ではないものの、本来の本校の校外学習・宿泊行事とほぼ同じように実施できたことに大きな意義を感じた。

【参考文献・参考にしたホームページ等】

(注1)農林水産省Webページ「山梨県の農泊採択地域－富士のふもと山中湖村農泊推進協議会」

https://www.maff.go.jp/kanto/nouson/shinkou/nouhaku/attach/pdf/nouhaku_yamanashi-11.pdf

(注2)山中湖観光協会Webページ「MANA BAR 山中湖産ワカサギ使用の【ゴマ&わかさぎ味】新発売！」

<https://lake-yamanakako.com/news/50>